

和歌山のワザ

小西化学工業＝和歌山市 有機 E L デバイス向け化合物生産 産業支えるチャレンジャー /和歌山

和歌山

毎日新聞 | 2021/4/19 地方版 有料記事 1143文字



第54回グッドカンパニー大賞・優秀企業賞の受賞メダルを手に笑顔の小西化学工業の小西弘矩社長＝和歌山市小雑賀の同社で、山口敬人撮影

小西化学工業（和歌山市）の本社敷地内に建つ新開発プラントでは、フォルダブル（折り畳み）ディスプレイなど有機 E L デバイス用の次世代偏光板製造に必要な化合物の生産が緒に就いたばかりだ。複雑な生産工程を経て合成される特殊な化合物を、小西弘矩（ひろのり）社長（61）は「化学的にマニアック」と笑うが、その言葉は研究・開発に懸ける同社の本質を表しているようにもみえる。

本社のある和歌山市小雑賀一帯は、化学工場の集積地だ。盛んだった繊維業から派生するように染色が広がり、その発展の中で求められた合成染料を製造する工場が集まった。

同社は、1952年に小西社長の父輝彦さん（故人）が創業。10年後に現在地に移り、主に合成染料を作り出すための染料中間体の製造を手掛けていた。しかし、97年に小西社長が就任したころは中国などからの安価な製品に押され、2000年代に入ると売り上げの減少が続くように。そうした状況に、小西社長が下した決断は「新しい領域へのチャレンジ」だった。

03年、最新鋭の旅客機ボーイング787の胴体や主翼に用いられる炭素繊維複合材づくりに必要な樹脂「多官能エポキシ樹脂」の受託製造を開始。多額の設備投資、厳しい品質管理要求など多くの課題をクリアして量産化を実現し、顧客の信頼を得た。



小西化学工業の実験室では、研究員が日々さまざまな実験・研究に取り組んでいる＝和歌山市小雑賀の同社で、山口敬人撮影



有機ELデバイス用の次世代偏光板製造に必要な化合物の生産が始まった新開発プラントの内部＝小西化学工業提供



小西化学工業の和歌山本社。右の建屋が2018年に新設され、2020年末に増強された新開発プラント＝同社提供

さらに、挑戦は続く。08年には新規事業の受け皿となる同社初の開発プラントを本社に新設。小西社長は「具体的な開発テーマはなく、先行投資だった」と振り返るが、これには開発型受託事業への転換の思いが込められていた。研究・実験室での初期段階から試作品段階、そして商業レベルの受託生産まで、「一貫して発注メーカーのお役に立つ」ことを目指した。

その一つの結実が、有機EL偏光板用の化合物の受託生産だろう。委託元の手部材メーカーから示されたのは「化学の力で新しいものを作り出したいという『ケミカル回帰』の方針」だった。小西社長は「そう言われれば共感し、感動してやらざるを得ない」。このあたりは「マニアック」の面目躍如か。

13年にエポキシ樹脂の第2生産拠点となる福井工場を設置、18年には新開発プラント、20年末にはその増強も実施した。研究者の採用にも積極的だ。

昨年末、すぐれた中小企業を顕彰する第54回グッドカンパニー大賞・優秀企業賞を受賞したが、それに満足することはない。「20年あまり思い続けてきたことが、ようやく動き始めたところ」と小西社長。「化学」の上に成り立つ社の行く末を冷静に見据えている。【山口敬人】

■ 業種 機能性化学品の開発・製造・販売

■ 所在地 和歌山市小雑賀3の4の77

■ 電話 073・425・0331

■ 設立 1962年

■ 資本金 1000万円

■ 従業員数 125人

毎日新聞のニュースサイトに掲載の記事・写真・図表など無断転載を禁止します。著作権は毎日新聞社またはその情報提供者に属します。

画像データは（株）フォーカスシステムズの電子透かし「acuagraphy」により著作権情報を確認できるようになっています。

Copyright THE MAINICHI NEWSPAPERS. All rights reserved.